

令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立新宿小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICTを活用したドリル学習を中心に繰り返し問題に取り組む活動をしたことで、「知識・技能」は、どの学年も目標値を上回った。5, 6学年に関しては、全領域目標値も上回った。
- ・図や絵、数直線を活用して考えることに児童が慣れたことで、「思考・判断・表現」は、高学年は目標値を上回った。

(2) 課題

- ・記述形式の問題について、国や区の平均に比べて誤答率が高い。問題の正誤について、結果のみでなく理由も理解できるような指導を行う。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	・目標値との比較：△ ・区平均との比較：▼		
第5学年	・目標値との比較：△ ・区平均との比較：△	・目標値との比較：△ ・区平均との比較：△ (第4学年時)	
第6学年	・目標値との比較：△ ・区平均との比較：△	・目標値との比較：△ ・区平均との比較：▼ (第5学年時)	・目標値との比較：△ ・前年度との比較：△ (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第4学年 ・目標値、区平均ともに上回った。 ・整数の構成や大小の比較、かけ算の計算については、問題によって目標値を大きく上回ったものもある。 ・割り算の文章問題、円と球の構成要素や時こくと時間についての問題は、目標値を下回った。	第4学年 ・目標値、区平均ともに下回った。 ・単元を問わず、概ね目標値と同じ傾向である。 ・□を使って場面を式に表すことや、問題に対する回答として除法の余りを切り上げる場合について理由を説明するなどの問題は、目標値を大きく下回った。	第4学年 ・記述式の問題における誤答の場合、無回答の占める割合が国や区よりも優位に高い。 ・無回答の多い児童については、途中の問題まで回答した後に残りの問題が無回答となっている傾向がある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第5学年 ・目標値を上回る。 ・小数の計算問題、割合、核の大きさの求め方に関しては目標値を上回っている。 ・分数の意味や表し方の問題、計算の決まりの問題に課題がある。 第6学年 ・目標値を上回る。 ・分数の計算、単位量あたりの大きさ、多角形の角度の求め方の問題は、目標値を上回り、校内正答率も高い。 ・小数の計算には課題がある。	第5学年 ・目標値を上回る。 ・三角定規を組み合わせでできる角の大きさの求め方の説明に関しては目標値を上回っている。 ・計算の決まりを理解し、式にあった文章問題を選ぶ問題に課題がある。 第6学年 ・目標値を上回る。 ・公倍数を使う場面を選ぶ問題は目標値を上回っている。 ・値に0がある平均を求める問題には課題がある。	第5学年 ・記述の問題は目標値を上回る。 ・計算のきまりの問題に課題があり、既習事項を生かす力に課題がある。 第6学年 ・記述の問題は目標値を下回る。 ・文章を粘り強く読み解く力に課題がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・計算の能力についてはA Iドリルを活用し、児童一人一人に応じた課題に取り組ませることで全体の習熟度を高める。 ・算数の用語や定義については、具体物の操作を通して直感的に理解したり、授業場面や生活場면을問わず声に出す機会を繰り返し設定したりして、確実な定着を図る。	・場面を式に表す際に、必要な言葉や数量に下線を引いたり、図に表したりしてから式を立てさせるなどして立式する力を高める。 ・回答の正誤に終始せず、正答までの道筋を自分の言葉で説明する活動に取り組む機会を設定する。	・個々の児童が得意とする力を日頃の授業の中で見出し価値付けすることで、児童に自分の得意なことやできることを自覚させ、問題へ取り掛かりやすくなるようにする。 ・少人数指導の実施により、習熟に合った指導展開を行ったり、補充的な指導やスモールステップで指導をしたりすることで達成感をもつ場面を設定する。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・計算の能力についてはA Iドリルを活用し、児童一人一人に応じた課題に取り組ませることで全体の習熟度を高める。 ・算数の用語や定義については、授業場面や生活場面を問わず書いたり声に出したりする機会を繰り返し設定し、確実な定着を図る。	・場面を式に表す際に、必要な言葉や数量に下線を引いたり図に表したりしてから式を立てさせるなどして立式する力を高める。 ・回答の正誤に終始せず、正答までの道筋を自分の言葉で説明する活動に取り組む機会を増やす。	・個々の児童が得意とする力を日頃の授業の中で見出し価値付けすることで、児童に自分の得意なことやできることを自覚させ、問題へ取り掛かりやすくなるようにする。 ・少人数指導の実施により、習熟に合った指導展開を行ったり、補充的な指導やスモールステップで指導をしたりすることで達成感をもつ場面を設定する。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・I C Tを活用して繰り返し課題に取り組ませる。 ・自分で課題を選んで学習に取り組めるよう、個別にあった課題を用意する。 ・学習の中で既習事項を確認する場を設ける。 ・算数用語や定義、既習学習を確認し、必要に応じて復習プリントを実施する。	・友達と考えを交流し、自分の考えを説明する場を設定する。 ・数と計算の領域では、問題解決に取り組む際、数直線を活用する習慣を身に付けさせる。 ・文章問題に取り組む際には、必要な言葉や数量に下線を引いたり、図や表、数直線等に表したりすることを通して、問題場面を正しく捉えることができるようにさせる。	・見直しをする習慣を身に付けさせる。 ・既習事項を生かして考える習慣を身に付けさせる。 ・少人数指導の実施により、習熟に合った指導展開を行ったり、補充的な指導やスモールステップで指導をしたりすることで達成感をもつ場面を設定する。 ・ふりかえりの時間で自己評価をする場面を設定し、課題に気づき、次に生かす力を身に付けさせる。